

## 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1 基本情報	
(1) 案件名	インクルーシブ教育推進のための教職課程構築事業
(2) 事業地	タジキスタン共和国ヒッサール市
(3) 贈与契約締結日 及び事業期間	・贈与契約締結日：2023年2月10日 ・事業期間：2023年2月10日～2023年11月9日 ・延長事業期間：41日間、2023年12月20日まで
(4) 供与限度額 及び実績（返還額）	・供与限度額：281,731米ドル ・総支出：271,953.10米ドル（返還額：9,777.90米ドル）
(5) 団体名・連絡先、事 業担当者名	ア 団体名：特定非営利活動法人 難民を助ける会 【法人番号：2010705000721】 イ 電話：03-5423-4511 ウ FAX：03-5423-4450 エ E-mail：staff@aarjapan.gr.jp オ 事業担当者名：事業申請書記載の事業担当者から変更なし
(6) 事業変更の有無	ア 事業変更承認の有無：有 （ア）申請日：2023年10月11日 承認日：2023年10月16日 内容：事業期間の延長 イ 事業変更報告の有無：有 （ア）報告日：2023年6月12日 内容：講義受講学生数の変更 （イ）報告日：2023年9月19日 内容：バリアフリートイレドアの変更 （ウ）報告日：2023年9月19日 内容：建設会社、研修日数および啓発活動参加人数の変更 （エ）報告日：2023年10月6日 内容：本部スタッフ派遣回数の変更 （オ）報告日：2023年12月5日 内容：現地事業担当人役の変更 （カ）報告日：2023年12月7日 内容：送金回数の変更 （キ）報告日：2023年12月18日 内容：IEについての講義受講学生数の変更

2 事業の概要と成果	
<p>(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)</p>	<p>本事業のプロジェクト目標は「タジキスタン共和国のヒッサール教員養成専門学校において、バリアフリー化整備及び人材育成を通してIEを学び実践するための基盤が築かれ、啓発活動を通してIEの理解が促進される。」であった。</p> <p>バリアフリー化工事により、現在在籍している障がい者34名を含む約1,100名すべての学生の高等教育へのアクセシビリティが向上した。また、教員養成専門学校の教員4名に「障がい研修」と「IE研修」を通じた人材育成を実施し、拠点校において学生がIEを学び実践するための基盤を整備した。また、ヒッサール市及びシャフリナウ郡で障がい当事者、保護者、教育関係者計58名を対象に進学説明会を実施し、拠点校におけるIEに関する取り組みを周知した。これらの活動により、プロジェクト目標を達成した。</p>
<p>(2) 活動内容</p>	<p>本事業は、ヒッサール教員養成専門学校を拠点校とし、タジキスタンにおけるIEの拡大を促すことを目指して以下の活動を行った。</p> <p>1. ヒッサール教員養成専門学校のバリアフリー化</p> <p>ヒッサール教員養成専門学校において、中央校舎入口1カ所へのスロープ取り付け、中央校舎通路2カ所のフラット化、中央校舎入口1カ所の段差解消及び障がいがあっても安全に使用することができるトイレ6基を含む全16基を備えるバリアフリートイレの建設を行った。竣工後、バリアフリー工事敷設箇所にODAロゴが入った看板を設置した。</p> <p>2. 教職課程における人材育成と教職課程指導事例集の作成</p> <p>2-1 教職課程を担当する教員へのTOT研修</p> <p>拠点校の教員4名を対象研修員とし、IEに精通した国内の専門家による①「障がい研修」を計5日間、②「IE研修」を計5日間実施した。</p> <p>①「障がい研修」については、研修を受けた4名の研修員は、学生に講義するための指導案を作成、模擬授業を実施し、計124名の学生を対象に講義を行った(事業変更報告(ア)参照)。5日間の「障がい研修」のうち4日間は、障がい専門家による講義に加え、自閉症の子どもたちのための施設や、手話と聴覚障がいに関する教育施設などの障がいに関する施設を見学した。</p> <p>②「IE研修」については、4名の研修員は、計80名の学生を対象に講義を行った(事業変更報告(キ)参照)。計画では同研修期間は4日間だったが、研修員がIEについての理解をより深めることができるよう、研修期間を5日間に変更した(事業変更報告(ウ)参照)。初めの3日間は、IEに関する概念を講義とワークショップ形式で学び、4日目にIEを実践する初等・中等校を訪問し、教員にIEの実践例について話を聞く機会を設けた。5日目には研修員はリハビリ・自立支援機器工場を視察し、一人ひとりに合った学びのサポートを行う方法について理解を深めた。</p> <p>その後、2023年10月30日から31日にかけて障がいとIEについての講義を受けた80名の学生のうち12名の学生が、当会の過去事業拠点校であるヒッサール市2番校と5番校で教育実習を行った。</p> <p>2-2 高等教育機関教員用教職課程指導事例集の作成</p> <p>学生に講義をするための計画と実施後の記録を実例集としてまとめ、同実例集には、ODA、教育科学省及び当会のロゴが入ったステッカーを貼付した。同実例集をヒッサール教員養成専門学校の全教員73名</p>

	<p>にハードコピーを、先行事業地であるドウシャンベ教員養成大学及びラシュト教員養成大学にソフトコピーを配付し、同事例集の活用方法や合理的配慮やユニバーサルデザインの実践例を紹介し、IEに係る講義だけではなく様々な場面で広く活用できるよう整備した。</p> <p>3. 啓発活動</p> <p>ヒッサール市及びシャフリナウ郡に在住する障がい児と保護者、教育関係者計 58 名を対象に、啓発活動として高等教育説明会を開催した。事業変更報告（ウ）の通り、啓発活動参加人数を 50 名から 58 名に変更した。</p> <p>同説明会では、ヒッサール教員養成専門学校のバリアフリー設備及び人材育成事業に関する情報、高等教育機関への進学に必要な試験や手続き等について資料を配付し紹介した。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>1. ヒッサール教員養成専門学校のバリアフリー化</p> <p>【成果】ヒッサール教員養成専門学校において、障がい者を含めたすべての学生のアクセスが確保される。</p> <p>【指標】障がい者を含む学生を対象とした事後アンケート調査において、「段差や溝などで通行や利用を妨げられることなく学校施設を利用できる」という回答が 80%以上となる。</p> <p>拠点校のバリアフリー化により、現在在籍している障がいのある学生や教員 34 名を含む約 1,100 名すべての学生や学校関係者が、建物にアクセスすることが可能となった。また、障がい者を含む学生を対象とした事後アンケート調査において、回答者 205 名（内、障がい者 12 名）全員（100%）が「段差や溝などで通行や利用を妨げられることなく学校施設を利用できる」と回答した。</p> <p>2. 教職課程における人材育成と教職課程指導事例集の作成</p> <p>【成果】ヒッサール教員養成専門学校において、障がいや IE を教授する教員が育成され、必要な教材が開発・整備される。</p> <p>【指標】①TOT 研修を受講した教員の講義を受けた学生の事後テストの正答率が 80%以上となる。</p> <p>②高等教育機関教員用教職課程指導事例集が作成され、ヒッサール教員養成専門学校に加え、先行事業地であるドウシャンベ教員養成大学及びラシュト教員養成大学において配付される。また、事例集活用説明会の参加者を対象にしたアンケート調査において、「有効に活用したい」という回答が 80%以上となる。</p> <p>IE に精通した教員を養成するためヒッサール教員養成専門学校の教員 4 名を対象にし、IE に精通した国内の専門家により、「障がい研修」及び「IE 研修」をそれぞれ計 5 日間実施した。同研修員の「障がい」についての講義を受講した学生の事後テストの正答率は 95%であった。また、「IE」についての講義を受講した学生の事後テストの正答率は 92%であった。</p> <p>上記障がいおよび IE についての講義を受講した学生からは、「生活環境に存在する障がいや人々の偏見が、障がいのある人の社会参加を阻んでいることを周りに伝えていきたい」「IE について学ぶことは教育の発展に重要であり、学校は障がいに関係なく全ての子どもたちのためにあるべき」等の声が寄せられた。</p> <p>同講義を受けた 80 名の学生のうち 12 名の学生がヒッサール市内の初等中等校で教育実習を行った。これらの学生からは「教員になることが夢だったので教育実習は貴重な経験だった。子どもたちの個別の</p>

	<p>ニーズに配慮しながら、すべての子どもたちに平等に接するよう心がけた。」との声が寄せられた。</p> <p>実例集活用説明会参加者へのアンケートで、回答者の100%が「実例集を有効に活用したい」と回答した。本説明会を通して、ラシュト教員養成大学に所属する教員がIE教育課程指導実例集の使い方を理解した。</p> <p>3. 啓発活動</p> <p>【成果】ヒッサール教員養成専門学校のバリアフリー環境及び人材育成事業が周知され、同校への進学を検討する障がい児を含めた生徒が増加する。</p> <p>【指標】高等教育説明会参加者へのアンケートで、「ヒッサール教員養成専門学校への進学を検討する」という回答が80%以上となる。</p> <p>ヒッサール市及びシャフリナウ郡において、障がい児と保護者、教育関係者を対象に進学説明会を開催し、計58名が参加した。進学説明会実施後のアンケートで、説明会に参加した障がいのある学生のうち80%が「ヒッサール教員養成専門学校への進学を検討する」と回答した。</p> <p>本事業の活動の結果は、SDGsのターゲット4.3「2030年までに、すべての人々が男女の区別なく、安価で質の高い技術教育、職業教育、及び大学を含む高等教育への平等なアクセスを得られるようにする。」、4.4「2030年までに、技術的・職業的スキルなど、雇用、働きがいのある人間らしい仕事及び起業に必要な技能を備えた若者と成人の割合を大幅に増加させる。」、4.5「2030年までに、教育におけるジェンダー格差を無くし、障害者、先住民及び脆弱な立場にある子どもなど、脆弱層があらゆるレベルの教育や職業訓練に平等にアクセスできるようにする。」の達成に寄与した。</p> <p>また、拠点校のバリアフリー化を通して、ターゲット4.a「子ども、障害、及びジェンダーに配慮した教育施設を構築・改良し、すべての人々に安全で非暴力的、包摂的、効果的な学習環境を提供できるようにする。」さらに、ターゲット11.7「2030年までに、女性・子ども、高齢者及び障害者を含め、人々に安全で包摂的かつ利用が容易な緑地や公共スペースへの普遍的アクセスを提供する。」の達成にも貢献した。</p> <p>加えて、同拠点校の卒業生が教員として全国様々な地域でIEを実践することにより、ターゲット4.1「2030年までに、全ての子供が男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」の達成にも寄与した。</p>
(4) 持続発展性	<p>建設したバリアフリースイートイレを含む施設については、拠点大学との間で譲渡書類を手交し、当会の事業完了後には、拠点大学の責任のもと維持管理、修繕を実施することを明文化した。また、3年間の保証期間内であれば必要に応じて施工した建設会社は無償で補修を依頼できるように体制を整えた。</p> <p>人材育成について、先行事業拠点校であるラシュト教員養成大学では、IE教育課程指導実例集を活用し、定期的に全教員間でIEについての勉強会が実施されている。本事業においても、ヒッサール教員養</p>

	<p>成専門学校が教員が研修や模擬授業を経て IE を教える実践を積み、改訂された同指導事例集を活用しながら、学生を育成していく。</p> <p>啓発活動について、本事業で高等教育説明会を実施する際、ヒッサール教員養成専門学校の学長や研修員に、同校のバリアフリー設備及び人材育成の取り組みについて参加者に向けて発表してもらう機会を設けた。これにより、本事業終了後も同校が主体となってバリアフリー設備や IE の推進について地域に発信するための体制が整備された。</p>
--	--

3 その他	
(1) 固定資産譲渡先	対象となる固定資産の購入はない。
(2) 特記事項	特になし

完了報告書記載日：2024年3月18日

団体代表者名： 理事長 堀江 良彰

団体としての最終版であることを確認済み（要チェック）

**【添付書類】**

- ① 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ② 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ③ 人件費実績表（様式4-c）
- ④ 事業内容、事業の成果に関する写真（様式4-e）
- ⑤ 外部調査報告書